

学校法人第一学園  
第一幼稚園 第二幼稚園 杉並台幼稚園  
平成 23 年度自己評価報告書

平成 24 年 6 月 4 日  
第一学園 理事長 伊藤博士

学校教育法第 42 条（第 28 条による準用、なお、幼稚園設置基準第 2 条の 2、同 3）に基づき、学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園における平成 23 年度自己評価を次の分類により実施した。

（1）教師用評価項目（全 60 項目）の分類

- ①教育計画・指導
- ②安全・衛生管理
- ③教師の資質・良識
- ④保護者・地域との連携、対応
- ⑤資質向上の取組

（2）園長用評価項目（全 78 項目）の分類

- ①教育内容
- ②地域の幼児教育センターとしての役割
- ③安全管理
- ④人事管理
- ⑤財務管理

平成 23 年度の自己評価のまとめとして、学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園の実情と評価の分析結果、及び今後の課題を別紙「自己評価公表シート」に記載する。

学校法人第一学園  
第一幼稚園 第二幼稚園 杉並台幼稚園  
平成 23 年度自己評価公表シート

平成 23 年 6 月 4 日  
第一学園 理事長 伊藤博士

## はじめに

学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園における自己評価シートをもとに、現状における本学園の実情を分析した結果、概ね以下の通りとなった。

なお、各幼稚園固有の問題については、その旨を示して記載するものとする。

## 【I】 本園の建学の精神・教育理念・教育目標

### 1 建学の精神

一人ひとりの幼児の姿を正しく見つめ、ただ一人の幼児の心をも悲しませない血の通った教育をする。

### 2 教育理念

幼児期にふさわしい温かい環境の中で、科学的に裏付けられた教育を実践することによって、教育目標の実現を図る。

### 3 教育目標

自己肯定感を持って自立し、他者との調和の中に、力強く自己実現できる人材の育成。

## 【II】 平成 23 年度に重点的に取り組んだ目標や計画

- 1 家庭、地域との密接な連携を大切に、幼稚園関係者全員の当学園の教育理念や教育目標の共通理解の下、相互の信頼と協力に基づく教育実践の充実を図る。
- 2 教職員の研修体制の一層の充実を図り、各職員の内面的自己充実とスキルアップにより、優れた教育環境、プロも入れたくなるような幼稚園を実現する。
- 3 「しせい教育」の理念に基づく教育実践に伴い、様々な成果が出てきており、その現時点までの整理を完了する

## 【III】 平成 23 年度自己評価

これまでの自己評価を踏まえた上で実践している日頃の教育活動を再検証し、分析し更なる教育の質の向上の為に、今後取り組むべき課題を明らかにする。

分野毎に表にまとめると以下となる。

評価分野	自己分析
教育計画	「幼稚園教育要領」を踏まえ、当学園の「教育理念」や「教育目標」に従い作成された「教育課程」に基づき作成された「指導計画」（年間成長計画）、及び「週案」、「日案」により教育を実践し、常に、検証と改善、充実を図っている。

評価分野	自己分析
教育の実施と指導	<p>十分に検討された教育計画に基づき、各自が自己充実を図ることを課題とした教師による、きめ細やかな教育体制は高いレベルにあると考えている。</p> <p>これからも、日々「研究」「実践」「検証」「改善」の過程を大切に、さらに、説明責任による確認を通じて、一層の充実を図ることとする。</p> <p>特別支援教育については、幼児一人一人のニーズに合った出来る限りの支援を行っており、特別支援コーディネーター支援員の方も認めて頂いているように、その成果は大きなものが出せていると考えている。</p> <p>コーディネーターの配置、補助職員の配置等負担も大きいですが、幼稚園の公益性の見地から努力していくべき重要な課題と考えている。</p>
地域・家庭との連携と支援	<p>十分な幼児教育実践の為には、家庭との「教育理念」「情報」の共有は不可欠である。今後も、相互の情報提供をより密にし、保護者会組織の支援も頂きながら園児の成長の基盤強化を図ることとする。</p> <p>なお、説明責任と関連して24年度は学園全体として外部に対する活動報告会(9月)を検討している。</p> <p>また、幼稚園の公益性の見地から、地域とのつながり、在園児以外への子育て支援にも一層努力する。</p>
安全・衛生管理	<p>日常における安全・衛生管理には十分に注意を払っている。</p> <p>「AEDの設置」「空気清浄機の設置」等も昨年完了し、各種訓練も的確に実施している。なお、園長は、熊本県私立幼稚園連合会の要請により、主任者研修会(8月)において当学園の危機管理に関する内容の講演を行う予定である。</p> <p>外部からの不審者の侵入自体への適確な対応手段は極めて難しいが、職員の見回り等を継続している。</p> <p>安全衛生に関しては、何より重要なものとして、今後も出来る限りの充実を図ることとする。</p>
人材確保・育成及び労務管理	<p>採用については、常に公平・公正を期しているところである。</p> <p>本年度も、教育理念に賛同した優秀な人材が応募してくれており、人材確保に不足はない。</p> <p>意欲ある職員による、積極的な「外部研修」への参加、「園内研修」の開催と参加等により、多くの成果を生み出してきている。</p> <p>労務管理においては、理事会の方針を踏まえ、就業規則をはじめ、種々の規定を整備して法改正にも対応しており、特段の問題は生じていない。</p> <p>充実した教育の実践の為の職場環境の一層の活性化を全員で考え実行している。</p>

評価分野	自己分析
財務管理と 法人管理	財務管理は、法人運営上最も重要な位置を占めている。毎年度必要書類を作成して公認会計士の監査を経るとともに、年2回の法人役員会の中で協議決定されている。将来に備えた留保金や日常運営資金には充分配慮しており特に問題はない。運営に関しては、毎月の「運営会議」「事務会議」により適切な運営が図られている。

#### [IV] 今後の課題と取り組み

自己評価の結果を、平成24年度における本園の活動に重要な指針として位置づけ、これを日々検証し、今後の学校関係者評価への発展を検討する。